

EWI と PC/Mac の徹底使いこなしガイド

この章では、第7章で触れた市販されているソフトウェア音源を MPC Beats で使用する方法を紹介します。

MPC Beats は VST と呼ばれる形式のプラグインをインストールして使用することができます。VST とはプラグインソフトの一種でシンセとエフェクターが含まれており、様々なメーカーから発売されています。今回はソフトシンセをインストールして MPC Beats で使用するまでの手順と、AKAI Professional の姉妹ブランドの AIR Instruments と SONiVOX 製のソフトシンセをご紹介します。ご紹介するソフトシンセの中には AKAI Professional や M-Audio 製品に無償でバンドルされているものもあります。

市販のソフトシンセを取り入れる

- 16-1 外部ソフトシンセを MPC Beats で認識させる
- 16-2 AIR Instruments : Hybrid 3
- 16-3 AIR Instruments : Expand2
- 16-4 AIR Instruments : LOOM2
- 16-5 SONiVOX : STRATUM



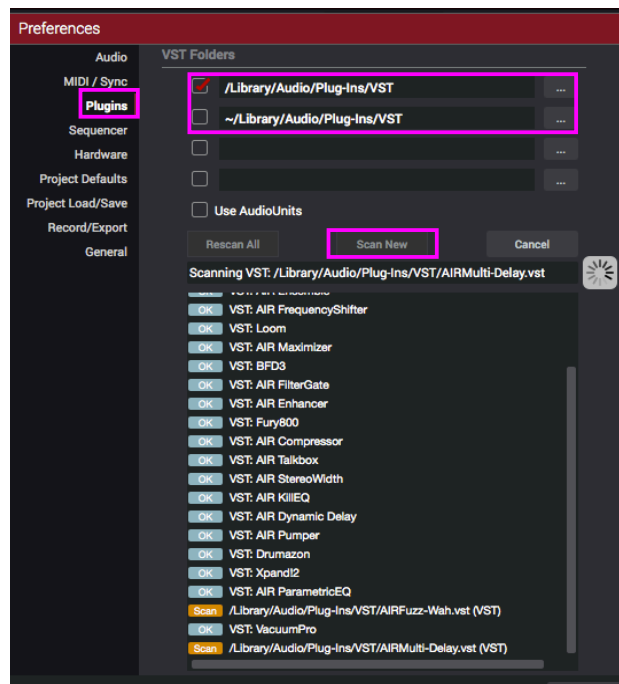
16-1 外部ソフトシンセを MPC Beats で認識させる
外部ソフトシンセを PC にインストールした後、MPC Beats にそれらのプラグインを認識させます。この作業は Scan と呼ばれ、Preferences 内の Plugins タブでプラグインのインストール先を指定し、スキャンをすることで外部ソフトシンセを MPC Beats で使用できるようになります。

プラグインのインストール先は、PC の環境や設定によりロケーションが違うことがありますが、多くの場合下記のロケーションに自動的にフォルダが作成されインストールされます。

Windows の場合 : Program Files\Steinberg\vstplugins

Mac の場合 : Library/Audio/Plug-Ins/VST

MPC Beats の Preferences > Plugins の画面で [...] をクリックしてプラグインのフォルダを選択し、チェックボックスにチェックを入れてから Scan をクリックして完了します。



▲プラグイン設定画面

16-2 AIR Instruments : Hybrid3

高解像度アナログ&ウェーブテーブル・シンセサイザー。アナログ・シンセの魅力である暖かさと、未来的なデジタル・マニピュレーションの能力を兼ね備えています。記憶にあるシンセサイザーのようにも、誰も聴いたことのないようなサウンドにもなるという両方の長所を兼ね備えています。



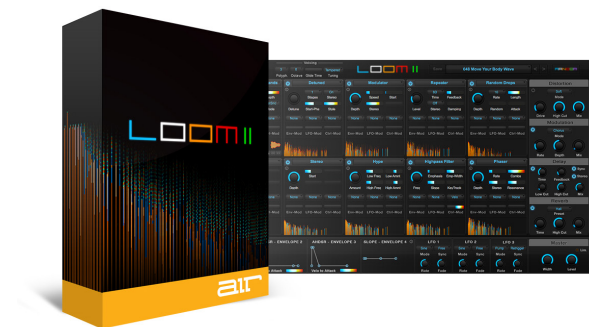
16-3 AIR Instruments : Xpand2

4 系統マルチティンバー音源モジュール。生楽器からシンセサウンドまで幅広い音色を収録。プリセットごとに4つのアクティブ・サウンド・スロット（パート）を持つマルチティンバー・ワークステーションです。各パートのボイスモードはポリフォニックまたはモノフォニックに設定でき、ポリフォニックパートは最大64ボイス、モノフォニックパートは音域ごとにベース、リード、ソロなど最大4つのシンセ音色を設定できます。



16-4 AIR Instruments : LOOM2

加算合成のポリフォニック・シンセサイザー。単純な波形を組み合わせて複雑なサウンドを作り出す合成技術（加算合成）を、34の編集可能なモジュールから選択して組み合わせるユニークなモジュール方式を採用。ウォブル、オルガン、パッド、アンビエント・サウンドスケープなど、様々なサウンドを作り出すことができます。



16-5 SONiVOX : STRATUM

ソー・シンセサイザー & 4 オペレータの FM シンセサイザー。クラシックなスーパーソー・シンセサイザーと4オペレータの FM シンセサイザーを組み合わせたサウンドで、トランスやハードコアのジャンルで聴かれるシンセ・リードやシンセ・ベースで主に使われています。

